

柿崎免許センターは直江津駅前に移転させ、技能試験コースも廃止の動き
免許更新等の手続きは、安塚幹部交番、上越警察署とともに直江津駅前を集約へ



柿崎の免許センター上越支所の移転について関係住民から心配の声が上がっている。建物だけでなく技能試験コースも直江津に移転されるのではないかと。安塚幹部交番での更新手続きもできなくなるのではないかと心配している人たちがいる。事実関係を確認したい。3月14日の総務常任委員会での私の質問です。

防災危機管理部の山田文之助氏は私の質問に対し、「免許センターからお聴きしている範囲内でお答えしたい」とのべたうえで、「柿崎のセンター（右の写真の真ん中）は建築から51年経過し、老朽化しているということ、いろいろ検討した結果、直江津駅前に移転するということが承知している。技能試験コースはまだ決定したということではないが、現時点では設置をしない」と聞いている。運転免許取得の技能試験は聖籠町または長岡市のセンターでということになる。「安塚幹部交番（実後の写真の一番下）、上越警察署での免許更新手続きもやめ、直江津駅前の新たな免許センターで行われる（見通しだ）」と答えました。

私からは、「議会で柿崎免許センターについて質疑があったこと、安塚幹部交番での更新手続きは継続してほしい声を県警に上げてほしい」と訴えました。これに対して塚田弘幸防災危機管理部長は、「要望は県の免許センターに伝える」と答えた。今後、関係地域出身の議員と協議し、連携の道を探っていくしたいと思います。

体操アリーナ、採決前に市民の声、次々

（仮称）上越市体操アリーナ新築工事費が盛り込まれた新年度一般会計予算の採決が26日に行われます。

採決を前に、市民からは、「一般市民には全く必要性を感じられません」「市民が納得できない事は行政は取り消すか延期して皆の意思で決定すべき」「ギヤラリー席の不足、駐車場の不足、アクセスの悪さは大問題」「大きな大会等で交通麻痺にならなきたいけど……」などの声が寄せられています。

（仮称）上越市体操アリーナ関連議案とこれまでの採決結果

議案名	その内容	採決結果
平成29年度上越市一般会計予算（2017年3月議会）	実施設計業務委託料など5511万円計上	賛成多数で可決 （反対は日本共産党議員団）
平成29年度上越市一般会計補正予算（第2号）（2017年9月議会）	施設用地購入費、用地造成工事費、敷地内等にある未使用温泉井の廃坑・配管撤去工事等で2億831万円計上	賛成多数で可決 （反対は日本共産党議員団、棄権は丸山章議員）
財産の取得について（2017年12月議会）	（仮称）上越市体操アリーナ整備事業用地を国際石油開発帝石（株）より1億5700万円で購入するというもの	賛成多数で可決 （反対は日本共産党議員団と丸山章議員）
平成30年度上越市一般会計予算（2018年3月議会）	（仮称）上越市体操アリーナ新築工事費（全体の22.4%）4億4,621万円計上	今月26日の本会議で採決



【トサミズキ】マンサク科の落葉低木の花。漢字で「土佐水木」と書きます。市役所の生け垣のなかにあるトサミズキが咲き始めました。咲き始めは黄色い小鳥が木にとまっているように見えます。花言葉は「清楚」。

はしづめ法一の活動レポート

No.1850 2018.3.25
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

春よ来い

第四九八回

雪に耐えて

コアカミゴケという地衣類に初めて出会ったのは昨年の一二月でした。わずかに二ミほどの細い体でしたので、冬に向かつて、大丈夫なのか心配でした。

じつは春まで待てず、雪が降ってからも二度ほど見に出かけました。前にも書いたように、場所は地元の代石池のそばです。雪さえなければ、歩いて一〇分ほどの時間で行くことができます。

今冬は早く雪が降ったものの、前半は雪の量が少なく、いつでも現地に行くことができました。そばまで近づいて、コアカミゴケが先端部に赤いものをつけて、ちゃんと立っている姿を見ると、ホッとしたものです。でも、一日に数十センチも降るようになってからは、行くことができなくなりました。

三月の半ばになって、ポカポカ陽気の日が何日も続きました。言うまでもなく、雪も急ピッチで消えていきます。先日、ひよつとすれば、コアカミゴケがどうなっていたか確認できるかもしれない、そう思って代石池の現場へ行ってきました。

コアカミゴケが生えていた場所は、土手が抜け落ち、トンパツクや木の杭などがあるところ。北向きで、日当たりのよくない場所でしたが、雪は三〇センチほどしかなく、長靴をはいて、らくらく行くことができました。

最初、一番北側にあるトンパツクを見たら、何も見当たりませんでした。あれだけ吹雪き、冷たいめにあれば消えても不思議はないな、そんなことを考えながら、先に進むと、カヤに覆われた奥にチラッと赤いものが見えたのです。もしか、と思った

ら、胸が高鳴りました。カヤをどけると、間違いありませんでした。コアカミゴケが昨年見たときと同じ姿

で立っていたのです。細い体も折れていないし、小さい唇のような形をした赤い先っぽもちゃんとついています。よく耐えたなあ。がんばったなあ。そう声をかけてやりたくになりました。

よく見ると、コアカミゴケはトンパツクの布や木の杭にも昨年見たときとほぼ同じ状態でありました。「ほぼ」と書いたのは、カヤなどで覆われていないところでは一部に斜めになったものや曲がったものもあつたからです。でも雪につぶされた形跡はありませんでした。

本来、コアカミゴケは冬も生き抜くことができる生き物なのかも知れません。どうあれ、冬を越し、雪に耐えた姿を見た私は、それだけで感動しました。

これまで私は、雪に耐えるシンボルとして、牧区今清水にある雪椿を特別な思いで見してきました。ここの雪椿はひと場所から百数十本の幹が出ていて、横に大きく広がっています。新潟県内では一番大きい雪椿だといわれていますが、どんなに雪が降ろうが、しなやかに耐え、決して折れることはありません。春になって、雪解けが始まると、雪をはねのけてピンと立ちます。そして赤い花を次々と咲かせるのです。

六年ほど前、私はその近くに住んでいた中島さんから、雪椿の話聞いて以来、毎年のように今清水を訪れるようになりました。雪椿を見れば、どんなにうれしいことがあっても元気になれる、そんな気がするからです。

そう言えば、最近、お連れ合いを亡くされたMさん、数年前にお会いした時、今清水の雪椿を一度見てみたいと言っておられました。四月下旬になれば、雪椿は赤い花を咲かせているはず。今年はずいぶん早く、早く元気になってほしいですね。

ニュースフラッシュ



柿崎写真コンテスト作品展示会へ

先日、柿崎区水野の銚子屋さんへ行ってきました。柿崎写真コンテストの入賞作品を中心とした展示が始まっていたからです。

入場者第1号は私でした。会場では、フェイスブックの友達や日頃からお世話になっている人とも会うことができました。作品は、スマホで見たもの

のとは迫力が違いますね。入賞作品は季節ごとに分けてあって、春夏秋冬の柿崎の魅力をとらえた作品を一つの空間で見ることが出来ました。

銚子屋での展示会は20日から会場を柿崎地区公民館に移し、26日まで行われています。開会時間は午前10時から午後4時までです。ぜひ、お出かけください。

坂口謹一郎博士を語る会

「坂口謹一郎博士と和歌」について、坂口家の菩提寺住職、坂井龍輔さんと陶芸家の齋藤尚明さんが18日、語ってくださいました。

このうち坂井さんは、ご自身が保有されている坂口博士直筆の色紙を何枚も掲げながら、「お酒は高度な文化。坂口先生は酒をスッと飲まない。味あって飲む人だった。先生はよく手紙を書かれたが、私はポストに入れる係だった。（書いた紙のなかで）空間、間のとり方が上手だった」と語りました。坂井さん、齋藤さんが語るエピソードは坂口博士の人物像を浮き彫りにしてくれました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月14日(水)	3月21日(水)
上越南消防署	0.043	0.040
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.040	0.040
頸北消防署	0.040	0.040
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.043	0.043
高士分遣所	0.040	0.040
名立分遣所	0.053	0.050